令和５年度

第５次総合計画　中期戦略事業プラン　事務事業評価シート

事業名	消防水利施設整備事業			事業番号	18-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	消防本部	嶋田　勉	警防救急課	武樋　修司	

計　　画　　（Ｐｌａｎ）

総合計画体系	安心力	まちづくり目標	2	地域で助け合う安全で安心なまち
		基本政策	5	暮らしの安心がひろがるまちづくり
		施策展開の方向	8	暮らしの安全を守るまちをつくる
		施策	18	迅速で適切な消防・救急体制の充実
予算事業名	消防水利施設整備事業			
事務区分〔選択〕	◉ 自治事務　○ 法定受託事務　(選択してください)→		法令上の位置づけ	義務づけ規定がある
事業開始年度	開始年度	平成30年度以前　～	終了年度	
関連法令等	消防法第20条・消防水利の基準			
国・県の計画等	国道246号バイパス・県道603号線整備事業に伴う防火水槽の補償		計画期間	
関連個別計画	消防水利施設整備計画		計画期間	
実施の背景（事業を取りまく環境・市民ニーズ）	今後の防火対象物等の情勢を注視しながら、消防水利の脆弱地域に消火栓又は耐震性貯水槽を整備します。			
目　的（何をどうしたいのか）	消防水利施設整備計画に基づき、消防水利の脆弱地域に消火栓及び耐震性貯水槽を整備します。			
主な対象（誰・何を対象に）	住民の安心・安全の確保と被害の軽減を図ります。			
事業内容（手段、手法など）	・消防水利施設整備計画に基づき、消防水利の脆弱地域への消火栓設置及び消火栓に偏った地域への耐震性貯水槽設置を進めます。			

事業行程

項目	年度 令和3年度	年度 令和4年度
消火栓整備	2基整備	1基整備
耐震性貯水槽整備	―	1基整備

目　標

【指標名】	【現状値】	年度 令和3年度	年度 令和4年度
消防水利施設整備計画に基づく消防水利整備箇所数	1,035カ所（消火栓1基）（令和2年度）	1,037カ所（消火栓2基）	1,037カ所（消火栓1基・耐震性貯水槽1基）

事業実施（Do）

事　業　実　施　　（Ｄｏ）

事業の「取組方針」 （前年度事務事業評価）	令和4年度は高森地内（アイリスの丘）に消火栓1基を設置します。

実施方法 〔選択・記入〕				
	○ すべて直接実施		◉ 左記以外	
	☑ 業務委託	☐ 指定管理	委託先又は指定管理者	神奈川県企業庁水道局厚木営業所
	☐ 補助金		補助先	
	☐ その他		具体の内容	

実施結果	項目	年度	
		令和3年度	令和4年度
	消火栓整備	2基整備完了	1基整備完了
	耐震性貯水槽整備	－	検討

実施した取組の内容	消防水利施設整備計画に基づき脆弱地域に消火栓を1基設置、令和3年度末に東部第二土地区画の換地処分がされたことから伊勢原市消防水利施設整備計画の見直しを図り消防水利整備カ所数が1,093カ所となりました。当初、耐震性貯水槽1基の整備を計画しておりましたが再度検討することとしました。

目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度	
			令和3年度	令和4年度
	消防水利施設整備計画に基づく消防水利整備箇所数	1,035カ所 （消火栓1基） （令和2年度）	1,037カ所 （消火栓2基）	1,093カ所 （消火栓1基）

コスト	年度		令和3年度　実績				令和4年度 実績			
	事業費合計(a)				1,708	千円			1,543	千円
	内訳	国県支出金 ①			0	千円			0	千円
		地方債　②			0	千円			0	千円
		その他特財　③			0	千円			0	千円
		一般財源 (a)-①-②-③			1,708	千円			1,543	千円
	国県支出金の内容									
	その他特財の内容	受益者負担	○ 有　○ 無		前回の改定時期					
		その他								
	人件費	正規職員	0.04	人	327	千円	0.04	人	343	千円
		その他の職員	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		人件費合計(b)	0.04	人	327	千円	0.04	人	343	千円
	トータルコスト (a)+(b)				2,035	千円			1,886	千円
	単位当たりコスト	対象数	定義	市民		単位	市民			単位
			対象数		101,381	人			101,119	人
		総事業費／対象数			20	円			19	円

評価　（Check）へ

評　価　（Ｃｈｅｃｋ）

進捗状況 〔選択・記入〕	○ 計画どおり（A） ◉ 概ね計画どおり（B） ○ 計画どおり進捗せず（C）	B	**左記判断理由**	企業庁水道局厚木営業所との連携により、高森地区に消火栓を1基設置しました。また耐震性貯水槽1基の整備を計画しておりましたが、整備手法が困難を極めることや物価高騰により工事費が当初より高額となることから再度検討することとしました。
実施水準 〔選択・記入〕	○ 他市より高い水準で実施（A） ○ 他市と同水準で実施（B） ○ 他市より低い水準で実施（C） ◉ 一律に比較できない事業	―	**他都市の事業内容等**	他市との比較はできないが、国の示す「消防水利の基準」に基づき、本市の水利現況を勘案し、市域における消防水利の配置等の状況、消防対象物及び地勢等を考慮し、緊急性と重要性から必要な場所に消火栓を設置しました（伊勢原市の充足率は93．7%）。
有効性 〔選択・記入〕	◉ 高い（A） ○ 普通（B） ○ 低い（C）	A	**左記判断理由**	災害に強い安心安全なまちづくりのため、脆弱地域への整備により、市民の生命・身体及び財産を災害から保護、防除するために計画的な整備が求められます。
効率性 〔選択・記入〕	◉ 効率的に実施されている（A） ○ 改善の余地がある（B） ○ 抜本的な改善が必要である（C）	A	**左記判断理由**	適正な地域に設置が進んでおり、消防水利脆弱地域が減少し、充足率の向上に繋がっています。

取組内容の改善　（Action）へ

取組内容の改善　（Ａｃｔｉｏｎ）

所管部長による総評	大規模地震災害時における消火活動に必要な消防水利を確保するため、消火栓や耐震性貯水槽の整備は重要です。 東部第二土地区画の換地処分がされたことを鑑み、伊勢原市消防水利施設整備計画の見直しを図るとともに、消火栓の整備は計画どおり進捗しましたが、計画にある耐震性貯水槽の整備計画を見直し検討する必要があります。